

# びぶりお



VOL. 11 NO. 1 The University of the Ryukyus Library Bulletin 1978. 6. 20

## 英米の図書館遍歴

瀬名波 栄 喜

東京大学図書館には明治文庫があり、九州大学図書館には筑紫文庫があると同様、アメリカやイギリスの図書館にも各々その特色があり、他に誇るべき何物かを蔵している。ハーバード大学の Houghton Library は17世紀英文学、エール大学の Sterling Library は19世紀英文学のコレクションと言う具合に各々その分野に強く、その道の研究者達を惹きつけてやまない。私の英米に於ける図書館遍歴はセントラル・ミズリー州立大学、ハワイ大学、カンザス大学、インディアナ大学、大英博物館、ケンブリッジ大学等の図書館に限られているが、ここではカンザス大学、インディアナ大学、大英博物館の三図書館の特色について簡単にふれてみることにする。

私が約5ヶ年間学んだカンザス大学の本キャンパスには、約165万冊の図書、200種の新聞、1万6千種の定期刊行物を蔵し、2千名の学生が収容できる Watson Library があるが、大学の誇りは1968年に開館された Spencer Research Library である。この研究図書館は、同窓生の Spencer 氏ご夫妻が212万5千弗の巨額の富を投じて完成された豪華な建物で、内外共に素晴らしい図書館である。「素晴らしい」と言っているのは、その建物が単に新築だからというのではなく、それ自体に芸術的な美の表現があり、学生や教授を外部から惹きつけないではおかないからである。キャンパスは、無限に広がる大平原にポツンと立つ Mount Oread と呼ばれる小高い丘にあるが、その研究図書館は州の最高学府を象徴しているかの如く「最高」の地点に位置し学問の世界に君臨している。

先ず、館内に入って人目を惹くのはホールに敷きつめられた真紅の絨氈であるが、内部の書架を埋めつくしているのは黒ずんだ古い文献や稿本ばかりで著しい対照をなしている。その図書館の特色は歴史と人文科学の分野であるが、その中にはフランス大革命当時配布されたパンフレットが何と1万部以上もある。英文学関係では、18世紀文学（詩）のコレクションが最も豊富で、エイツやジョイスの二大作家を中心とする現代アイルランド文学や現代アメリカ文学（詩）のコレクションがそれに続く。これらは大学が特に力を入れている部門であるが、アメリカの自然主義作家ワイルダーの名作『シスター・キャリー』の稿本があり、又、私の研究対象となった英国ロマン派詩人ワーズワースの自筆の手紙や招待状等此の世界にたった一点しかない貴重な文献や稿本が多数保管され研究者の参考に供せられている。



ワーズワース・ルーム

その他詩人にまつわるものが、125点も集められている。このコレクションは、1943年インディアナ大学が Oscar L. Watkins という愛書家のワーズワース・コレクションを購入し、それを基にして今日のコレクションを築き上げたものである。その特色は、詩人の生存中に出版された詩や詩集の初版を集めたことにある。1793年版の『夕べの散歩』や『ディスクリップティヴ・スケッチズ』等の初期の作品を始め、ロマン主義文学の画期的作品となった1798年版の『叙情民謡集』等の初版が並べられている。詩人の原稿の多くは故郷グラスミアの博物館に蔵されているが、Lily Library にも“*So fair, so sweet*”という詩の原稿がある。その他、後の首相グラッドストーンから詩人宛に送られた二通の手紙や弟の悲劇的な死を伝える詩人自身の手紙等もある。

Lily Library には実に小ぎれいなワーズワース・ルームがある。その部屋を管理運営しているノイズ教授は、生前の詩人を想起させる胸像や肖像画等を部屋の中に展示しロマンティックなムードの中でワーズワースセミナーを開講しておられる。教授は私を部屋に案内すると、三つの異なった視点から詩人の肖像画を眺めさせ、どちらの方角から見たのが真のワーズワースであるかを説明して下さい。ワーズワース崇拜家として知られる教授はその部屋に入る度に最敬礼をするのだと聞かされたが、私にとっても教会にも劣らぬ荘厳さを感じられた。

去年の今頃、ちょうどカンザス大学での研修を終えイギリスへ発たんとしている折、英文学研究者にとって実に驚くべきニュースがアメリカのテレビ、新聞を通じて大々的に報道されていた。そもその始まりは、今を去る150年程前、詩人バイロンの友人で賭博師の Scrope Davies がロンドンのパークレー銀行に預けてあったトランクの錠が開けられたことにある。そのトランクの中には、1820年の始め頃バイロンが大陸からイギリスへ帰る Davies に託した彼自身とシェリー二人の詩の原稿や書簡やノート等が発見されたからである。当時、その大発見はこれら二大詩人の再評価にもつながる貴重な研究資料であると巷間ではうわさされていた。

私は去った1月26日世界最大を誇るロンドンの大英博物館図書館を訪問し、これら二大詩人の筆跡をつぶさに見る機会を得た。その結果、両詩人に関する幾つかの「新事実」が明るみに出た。例えば、バイロンの「シロンの囚人」と題する詩の中の *a loneli bird*（さみうき小鳥）は実は“*a lovely bird*”（愛らしき小鳥）の誤りであることが判明、彼の長篇詩『チャイルド・ハロルドの遍歴』に登場する Inez という女性は実はバイロンの離婚した妻 Annabella がそのモデルになっていたことも、1819年彼によって書かれたその賭博師宛の書簡によって明らかになった。尚、シェリー自筆の「モンブラン」や「知的美の讃歌」等すでに今日まで読まれてきた詩の原稿の他に、未発表の詩が二篇含まれており、彼の詩想や詩的想像力の解明に光をあてることになるであろうことは論を俟たない。これらの「新事実」を求めて、イギリス国内はもとより、外国からの文学巡礼者が大英博物館図書館の展示場を立錫の余世もない程に埋めつくしていた。

我が国の国会図書館に相当するであろうこの大英博物館図書館は、第二次大戦により15万冊の図書を喪失したとは言え、英文学のコレクションに関する限り、依然として他に匹敵するものはどの国にもないと言われている。その最も誇るべきものの一つは、著名な作家の書き残した幾百という原稿のコレクションである。私の関心は主として19世紀のロマン派詩人やヴィクトリア朝詩人であり、彼等の手書き稿本を出来るだけ多く見ることにした。然し、それ以上に私を驚かせたものは、その博物館が創立された1753年前に活躍した作家達のものである。英文学史上最初のそして最大の叙事詩の一つとして知られるアングロ・サクソン時代の『ベオウルフ』を始め、中世文学最高のロマンスと言われる『ガウエイン卿と緑の騎士』の稿本、ルネサンス最大の詩人シェイクスピアの1623年に集大成された二つ折り本等を目の当りに見たのである。

私の図書館遍歴を通して言えることは、各図書館とも他を凌駕する何物かを蔵しているということであるが、それは作家の作品の原稿や初版や自筆の手紙等のコレクションに負う所が大きい。研究者にとって最も重要なことの一つは作品の原点に帰ることであり、その意味に於て稿本や初版の重要性はいくら強調しても強調しすぎることはない。又、その背後にある作家の自筆の書簡やパンフレット等の重要性も決して見逃がすわけにはいかない。我々研究者は内部と外部の両面から作品にアプローチしなければならぬからである。

(教育学部教授・英文学)

## 白鳥郁郎文庫の受贈について

故白鳥郁郎氏の蔵書であったドイツ文学、日本文学等の800余冊を母堂の白鳥君子氏から琉球大学へ寄贈された。

郁郎氏は我が国における東洋史学の開拓者で世界的権威者である白鳥倉吉博士(1865～1942)の孫にあたり、父清氏、兄芳郎氏も東洋史学者である。白鳥郁郎氏は東京帝国大学独文学科を卒業後、白百合短大講師、昭和女子大学助教授、慶應大学助教授を歴任した。ドイツのヘルダーリン(詩人)の研究者で「差別からの人間解放」を終生のテーマとして詩とドラマの世界において展開しようとしたといわれている。氏は昭和27年32才で将来を囑望されながら亡くなった。

この度本学助教授我部政男氏の東京教育大学大学院時代の同期生であった野崎正照氏を通じて本館に寄贈の相談があり、「沖縄戦の戦禍より自力復興に努力された沖縄県民就中沖縄で学ぶ若き学徒のために蔵書が活用されれば故人の遺志にも沿うものである」との白鳥君子氏の御芳志が伝えられてきた。そこで我部助教授の仲介で本学図書館へ寄贈される運びとなりました。図書館では鋭意故人の意志に添うよう努力すると共に学長より記念品及感謝状を贈り白鳥郁郎文庫として所蔵することにした。

寄贈の主なるものは戦前出版の本で今後入手不可能なものが多いと思われる。寄贈書の主なるものは次の通りである。

ジメル：ゲーテ 木村謹治訳 楼井書店 昭和18年	茅野蕭々：ゲョエテ研究 第1書房 昭和14年
木村謹治：ファウスト研究 弘文堂書房 昭和16年	新関良三：シラーと希臘悲劇 東京堂 昭和16年
ペーターゼン編：シラーの対話 橋本忠夫訳編 教材社 昭和19年	吹田順助：ヘルデルリン 生活、芸術、思想 晴南社 昭和24年
グリルパルツェル：金羊皮一三部劇詩 相良守峯 訳 岩波書店 大正15年	

以下割愛

## 沖縄研究資料（郷土資料）の収集について

昭和52年度の沖縄研究資料の複写収集については、文部省から12月に沖縄関係文献資料保存事業費として、予算が示達されたので、まず本館で作成された「沖縄研究資料複写収集3年計画書」にもとづき、鹿児島県立図書館、鹿児島奄美分館、鹿児島大学附属図書館、九州大学附属図書館、国立国会図書館、東京大学附属図書館へ複写依頼の公文書を発送して複写許可を得てから、複写専門業者に複写を依頼した。又他の機関からも協力を得て資料を収集し予算を消化することが出来た。

鹿児島図書館蔵の「奄美群島の地誌、民俗、歴史等に関する資料等」、鹿児島大学附属図書館蔵の「琉球渡海人数賦等」、沖縄史料編集所蔵の「復帰運動関係資料」等数多くの貴重な資料296冊、273リールを収集することが出来た。

沖縄は独特の文化圏を形成しているといわれ、内外の研究者の注目するところであるが、去った大戦で県内の資料は殆んど散逸している。開学以来、附属図書館は伊波文庫、宮良殿内文庫等の特殊文庫や民政府関係資料、その他数多くの資料収集に鋭意努力してきたが、これからも沖縄の戦後秘史といわれている戦後27年間に及ぶ米国政府機関の対沖縄政策に関する膨大な資料、又は未収集、未発掘資料を沖縄研究者の協力を得て、可能な限り収集する計画をしている。更に今後は中国、東南アジア、外国における日本研究資料等を巾広く収集し、特色ある蔵書構成にするため努力したい。

今年度の収集にあたって、文部省をはじめとして、原資料を所蔵しておられる下記機関及び個人から受けた理解と協力に対して、深く感謝申し上げます。また、県史編集所長大城立裕氏、那覇市史編集室長外間政彰氏、本学助教授我部政男氏にご協力していただきました。記して感謝申し上げます。

### 複写収集資料目録

資料名	所蔵機関名
日本教育史資料3-6他	鹿児島県立図書館
琉球渡海人数賦他	鹿児島大学附属図書館
奄美大島語案内他	九州大学附属図書館
沖縄県公報明治37年-40年他	国立国会図書館
琉球国事略他	東京大学附属図書館
公文雑纂昭和2年-10年 沖縄関係他	国立公文書館
八重山資料(1)他	早稲田大学附属図書館
中山伝信録物産考他	宮内庁書陵部
復帰協総目録他	沖縄史料編集所
沖縄人連盟他	那覇市史編集室
饒平名家文書	本部町饒平名家
第6マリン師団の歴史 一沖縄戦一	我部政男氏
沖縄県会議事速記録他	沖縄県議会図書館
ウィリアム・アダムス氏の琉球諸島の航海日記	沖縄県立図書館
琉球政府関係文書 1946-1966 14リール	沖縄県庁

#### (1) 鹿児島県立図書館蔵

日本教育史資料3-6

奄美史年表

奄美大島経済植物誌

奄美の生物研究報告	奄美大島誌料	奄美大島方言調査
大島由来記	大島産藍の有益について	大島郡郷土地理
大島郡産業一覧	喜界島誌料	沖永良部島社倉の沿革
徳之島郷土研究会報	沖永良部島全図	永良部島
徳之島小史	与論島の民謡と生活	トカラ列島誌
種子島民俗 1～18	琉球藩に於ける糖業政策	島津琉球軍記
あゝ運玉沖繩戦記	鹿児島諸島の研究	
奄美民謡をめぐる伝説全集	屋久島古図	硫黄島中之島及悪石島植物方名集 (以下略)

(2) 鹿児島大学附属図書館蔵

琉球渡海人数賦	沖繩県糖業要覧
沖繩県立糖業試験場報告 1～7 (大正4年-10年)	南国史話
沖繩県昆虫目録第1号 (昭和2年)	琉球産業資料糖業と旧慣諸制度
沖繩県立蚕業試験場報告 1-5	琉球征伐記 (以下略)

(3) 九州大学附属図書館蔵

奄美大島語案内	沖繩史跡名勝天然記念物一覧
琉球の武術=空手	沖繩県首里市歳出予算書 昭和10年
琉球国使節来朝図	

(4) 国立国会図書館蔵

沖繩タイムス紙 明治43年9月-昭和51年12月	85リール
うるま新報 1945年8月-1951年9月	3リール
琉球新報 1951年10月-1960年12月	39リール
“ ” 明治31年4月-大正7年5月	45リール
沖繩毎日新聞 明治42年2月-大正3年12月	18リール
沖繩県公報 明治37年、38年、39年、40年	
大典記念沖繩人事興信録 昭和4年	沖繩気象年報 那覇測候所 大正5年
明治7年生蕃討伐回顧録	沖繩振興策論 昭和6年
沖繩振興計画とは如何なるもの 昭和8年	沖繩に於ける橋の発達
沖繩県八重山郡に於ける「マラリア」予防に関する調査	
国勢調査報告 大正9年、14年、昭和5年、10年	
沖繩県気象年報 大正9年、10年、11年、12年、13年、14年、15年	(以下略)

(5) 東京大学附属図書館蔵

琉球国事略 (新井白石)	琉球船
琉球贈答	黒糖白下糖消費税免税並沖繩県産分密糖
琉球産物抜売禁止一件 天保11年	原料生産者保護請願書 大正15年
琉球事件 (松井順治編) 明治13年	
大正元年及明治18年小作慣行ニ関スル調査資料 (農務省農務局)	

(6) 国立公文書館蔵

元老院日誌目録 1～5 (明治8年～明治18年) 公文雑纂沖縄関係 1～13 (明治19～昭和10年)

(7) 宮内庁書陵部蔵

琉球人来使記 琉球神道記  
琉球国聘使記 琉球王使参上記  
琉球謝恩使唱曲 中山伝信録物産考

(8) 那覇市史編集室

沖縄人連盟関西本部関係資料 昭和21年 沖縄問題解決促進国民運動 昭和29年  
沖縄に本を送る会関係資料 昭和31年 沖縄結核療養者受入に関する資料 昭和37年  
向姓家譜

(9) 沖縄史料編集所蔵

復帰協一復帰運動関係資料：  
発送文書綴 1970年～1974年 祖国復帰協議会 1953年  
起案書綴、雑文書綴 (本土沖縄関係) 受付公文書綴、到着公文書綴  
参考資料、收受文書 (本土沖縄関係) 1963年～1966年  
受付公文書、到着公文書 各種印刷物 1961年～1967年  
総目録

(10) 饒平名家文書

「琉球処分」前後から沖縄戦に至るまでの饒平名家の経営史料

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| (1) 土地関係証文    | (2) 貸借証文          |
| (3) 模合関係証文・帳簿 | (4) 藍の経営に関する史料    |
| (5) 領収証       | (6) 家譜、株券、預金、賞状など |
| (7) その他       |                   |

(11) 沖縄県議会図書館蔵 15リール

1. 第36回通常沖縄県会議事速記録、(39回、41回、43回、45回、49回、51回、56回、60回、62回、64回)
2. 1951年4月～1952年12月 琉球臨時中央政府立法院会議録
3. 沖縄群島議会(定例会)関係書類綴
4. 八重山群島議会議決書類
5. その他

## OECD出版物について

OECD (Organization for Economic Cooperation and Development = 経済協力開発機構) は加盟諸国の経済成長の促進、世界貿易の拡大、発展途上国への経済援助を目的とするものであるが、各種活動分野のなかでは加盟各国の年次経済審査と経済政策の調整、貿易外取引、資本取引の自由化、ならびに開発援助委員会による対発展途上国経済援助が特に著名である。

OECDは、米国の対欧援助受入機関として1948年に発足した欧州経済協力機構を承継して、1961年9月に米国、カナダを加え、加盟国20カ国で新たに発展的改組した機関である。1964年に日本が加盟し、現在24カ国により構成され、パリに本部を置いた国際経済機関である。

OECDはその活動目的によって広範な分野で研究調査や討議をおこない、その成果を報告書として公開している。この出版物が各国の諸政策の立案、運営に役立ち、また大学・研究機関の研究資料として活用されている。

OECD出版物は、「年次経済調査」をはじめ12種の雑誌類と産業別の15種の年報類とがあり、さらに今日まで約1000点にのぼる単行本がある。これらの内容は、経済・財政金融問題から開発、労働・社会問題、さらに科学技術、教育にいたり、最近では環境・公害問題、情報とその分野を拡大している。これらの報告類は各委員会の活動によって生まれたものである。

本館では1974年、11月27日11時から約1時間にわたり館長室においてOECD東京出版センター所長ジョンR・バーネット氏と法文学部の砂川部長、経済学科の山里、山城両教授、図書館側から杉浦館長、平良事務長、関係職員が出席してOECDの目的、資料の購入等について懇談が行われました。話し合いの結果ブランクセット、オーダー（全出版物一単行本、定期刊行物12種類、非売報告書類）で注文することが決定され、翌1975年から購入されて四階雑誌室の入口に備付けられていますのでご利用下さい。

## 主要新着図書リスト

本多勝一：ジャーナリズム論 すずさわ書店 1975	070.1 - H84	石川謙：近世日本社会教育史の研究 改訂版 青史社 1976	372.1 - I 76
新渡戸稲造全集 1-16 教文館 1969 - 1970	081.8 - N88	駒林邦男：思考の形成と制御 明治図書 1977	375 - Ko 56
青木紀元：日本神話の基礎的研究 風間書房 1970	162.1 - A53	海村生活の研究：柳田國男編 図書刊 行会 1975	384.1 - ka 21
内村鑑三信仰著作全集 1-25 山本泰 次郎編 1961-1966	190.8 - U19	Mach, E.：力学史 岩野秀明訳 公論社 1976	423.02 - Ma 16
田中惣五郎：征韓論、西南戦争 白揚社 1939	210.621 - Ta 84	Myers, R. J.：分子磁性と磁気共鳴 出口安夫共訳 培風館 1974	431.27 - My
清澤冽：政治家としての大久保利通 中央公論社 1942	289.1- 054	鈴木次郎：地球物理学概論 朝倉書店 1974	450.12 - Su96
Almond, G. A. 他：現代市民の政治文化 石川一雄〔等〕訳 勁草書房 1974	311 - A41	日本の衛星写真：丸安隆和〔等〕著 朝倉書店 1977	454.91 - N77
橋本公亘：憲法 改訂版 青林書院 1976	323.4 - H38	島田安正：土木建造物の基礎 鹿島 出版会 1977	513.4 - S h36
佐藤立夫：行政法総論 改訂版 前野書店 1976	323.9 - Sa 85	Calahan, D. A.：コンピュータによる電 子回路設計 鈴木登紀男 共訳 日刊工業新聞社 1974	549.3 - C 13
民法学 1-7 奥田昌道〔等〕編 有斐閣 1975 - 1976	324 - Mi 47	日本鉄鋼協会編：銅の熱処理 改訂5版 丸善 1976	564.2 - N77
Smith, Adam：国富論 1-3 大河内一男監訳 中央公論社 1976	331.321 - Sm 5	吉田実：畜産を中心とする実験計画法 養賢堂 1975	640.7 - Y 86

- 1980年の世界貿易構造：片野彦二共著 678.2 - Se69 岩波講座日本文学 1~20 岩波書店 910.8 - I 95  
 経済企画庁経済研究所 1976 1931-1933
- 星斌夫：大運河—中国の漕運 近藤出版社 684 - H92 日本歌人講座 1~8 別巻 久松 911.102 - N77  
 1974 潜一〔等〕編 弘文堂新社 1968-1969
- Zotov, A. I. : ロシア美術史 石黒寛共 702.38 - Z 5 短歌講座 1~12 改造社 1931 911.108 - Ta83  
 訳 美術出版社 1976 ~1932
- 田中清香：染色の技法 理工学社 753.8 - Ta 84 岡部政裕：万葉長歌考説 風間書房 911.12 - 037  
 1974 1970
- 波多野義郎：事例レポート・論文の書き 780.7 - H42 土とふるさとの文学全集 1~15 918 - Ts 29  
 方 泰流社 1974 臼井吉見〔等〕編 家の光協会 1976
- 東京都立大学身体適性学研究室編：日本人の体力標準値 二版 不昧堂出版 1975 781.18 - To 46 安藤次男著作集 1~8 青土社 918.6 - A47  
 1974 - 1977
- 林四郎：文学探求の言語学 明治書院 815.9 - H48 藤島秀磨：リーバード・リード研究 930.28 - F66  
 1975 千城 1975
- 工藤篁：中国語を学ぶ人へ 創業の詩 820.4 - Ku 17 横溝政八郎：ゲルハルト・ハウプトマン 940.28 - Y77  
 一水社 1975 人と作品 郁文堂 1976
- 菊地巨：基礎のためのスペイン語 大盛 860.7 - Ki 24 Barthes, R. : サド、フーリエ、ロヨラ 950.2 - B25  
 堂書房 1975 篠田浩一郎訳 みすず書房 1975
- 伊原 昭：日本文学色彩用語集成 中世 910.24 - I 25 Corneille, P. : コルネイユ名作集 岩瀬孝 952 - C88  
 笠間書院 1975 〔等〕訳 白水社 1975
- 馬場久治：森鷗外伝 黎明調社 910.28 - B12 Aiskhulos. : アガメムノーン 呉茂一 991 - A25  
 1943 訳 筑摩書房 1975

## 図書館事情

<第111回図書館運営委員会> 日時：5月23日（火）15:15~17:00

場所：会議室（プレハブ2階）

- 審議事項：(1) 昭和52年度決算、53年度所要額及び昭和54年度概算要求額について  
 (2) 図書館建設委員会の設置について  
 (3) キャンパス移転に伴う図書館図書の利用について（工学系）

- 報告事項：(1) 九州地区国立大学図書館協議会（5月11日）について  
 (2) 文部省の「国立大学附属図書館の実情聴取（5月18日）」について

<第112回図書館運営委員会> 日時：6月6日（火）15:15~17:00

場所：会議室（プレハブ2階）

- 審議事項：(1) 図書館建築について

琉球大学附属図書館報“びぶりお”第11巻第1号〔通巻第39号〕

昭和53年6月20日 発行人 平良恵仁 沖縄県那覇市当蔵町3丁目1番地

電話 34-0101（内線338）